

東北大学における入試広報の国際展開

—オンラインを活用した多言語情報発信の取り組み—

南紅玉, 宮本友弘 (東北大学)

東北大学では、2020年から新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、入試広報活動のオンライン化を即急に進めた。オンライン化の推進に伴い、その中で海外からより多くの優秀な学生を受け入れることを目標に入試広報活動の国際展開を試みた。本稿では、入試広報の国際展開の第一歩として実施したオンラインを活用した多言語情報発信の取り組みの現状と課題について検討し、今後の入試広報の国際化への展望について考察を加えた。

1 はじめに

世界的に優秀な人材を獲得する競争が国や組織レベルで展開されている。日本においても2008年より文部科学省が2020年までに日本への留学生数を30万人に増やす「留学生30万人計画」施策を進めてきた。日本学生支援機構(2020)の「外国人留学生在籍状況調査」によると、2019年5月1日には留学生数が312,214人となり、計画が1年前倒しする形で達成された。現在では、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら受入れの質の向上を図る「ポスト留学生30万人計画」が継続されている。

東北大学でも、「東北大学ビジョン2030」(東北大学, 2018)で「アドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を広く国内外から確保するための入試制度を開発・実施する」とし、さらに「アップデート版」(東北大学, 2020)では、「距離・時間・国・文化等の壁を越えた多様な学生の受入れを推進、海外ネットワークを利用した戦略的なアドミッションを通して卓越した留学生を獲得、オンラインを活用して国内外を対象とする高大接続プログラムやオープンキャンパス等を機動的に展開する」ことを掲げている。

その一環として、東北大学では、海外からより多くの優秀な学生を受け入れることを目標に2020年からオンラインによる入試広報を実施するうえで、入試広報活動の国際展開を試みた。本稿では、入試広報の国際展開の第一歩として実施したオンラインを活用した多言語情報発信の取り組みの現状と課題を検討することを通して、今後の入試広報の国際化への展望について若干の考察を加えたい。

2 東北大学の外国人留学生数の現状と課題

2.1 学籍別にみる外国人留学生数の推移

表1は、2010年から2021年までの学籍別にみた東北大学外国人留学生数の推移である。総数の推移をみると、2010年は約1,700人の留学生が在学していたが、2011年の東日本大震災の影響によりその数は約1,500人まで減少した。その後は2015年から再び増加し始め、2016年には2,000人を超えるようになっていく。2020年から2021年には、新型コロナウイルス感染症の影響で若干の減少はあるものの2,000人以

表1 学籍別にみる東北大学外国人留学生数推移 (2010年~2021年)

年月	学部生	大学院生	研究生	その他	総数
2010年11月	132	1,043	320	226	1,721
2011年11月	148	1,128	169	139	1,584
2012年11月	159	1,043	168	181	1,551
2013年11月	171	1,002	201	209	1,583
2014年11月	191	1,068	230	253	1,742
2015年11月	198	1,185	309	297	1,989
2016年11月	218	1,307	346	289	2,160
2017年11月	222	1,393	331	271	2,217
2018年11月	217	1,489	322	227	2,255
2019年11月	201	1,600	354	283	2,438
2020年11月	204	1,622	221	56	2,103
2021年11月	189	1,569	227	148	2,133

注：大学院生：修士・前期2年、博士後期3年、博士（医歯薬）、専門職学位（2019年～）
研究生：学部、大学院、研究所等
その他：日本語研修コース研修生、特別聴講生、特別研究生、科目等履修生
出典：東北大学外国人留学生数調査票のデータに基づき、筆者作成

上の留学生が在学している。

学籍別の内訳をみると、大学院生が大多数を占めていることが見て取れる。修士課程の準備段階にある学部研究生及び大学院等の研究生の数も合わせると、大学院生の数は留学生総数の7割～8割を占めている。それに対し、学部生はこの10年間で毎年130～220人程度になっており、大学院生と研究生を合わせた数の10分1と少ないのが現状である。

2.2 国籍・地域別にみる外国人留学生数

表2は、2021年11月現在の国籍・地域別にみた東北大学の外国人留学生数を示したものである。東北大学には、2021年11月1日現在で87カ国・地域からの2,133人の留学生が在学している。そのうち、アジアの総数が1,879人と全体の約88%を占めている。具体的な国・地域別でみると、中国が1,392人と最も多く、その次にインドネシアが116人、韓国90人、台湾68人と続く。インドネシアの総数は、中国に次いで2番目に多い国ではあるものの、費用別に分けると、国費が54人、私費が62人となっている。私費外国人留学生の数のみで見た場合、中国が1,334人と1番多く、2番目に韓国が78人、3番目が台湾の68人、インドネシアは4番目になる。近年、東南アジアからの私費外国人留学生数が増加傾向にあるが、2021年までのデータではやはり中国、韓国、台湾からの留

表2 東北大学の国・地域別外国人留学生数 (2021年11月1日現在)

国・地域	計	費用別人数		計 (再掲)	学籍別人数				
		国費	私費		学部	大学院	研究生	その他	
合計 (87カ国・地域)	2,133	342	1,791	2,133	189	1,569	227	148	
アジア (17)	インド	38	17	21	38	8	26	2	2
	インドネシア	116	54	62	116	25	78	7	6
	韓国	90	12	78	90	49	34	3	4
	カンボジア	1	1	0	1	1	0	0	0
	シンガポール	6	4	2	6	3	2	1	0
	スリランカ	8	4	4	8	0	8	0	0
	タイ	62	32	30	62	16	40	0	6
	台湾	68	0	68	68	8	41	2	17
	中国	1,392	58	1,334	1,392	53	1,100	191	48
	ネパール	1	0	1	1	0	1	0	0
	パキスタン	12	9	3	12	0	11	0	1
	バングラデシュ	21	12	9	21	2	18	1	0
	フィリピン	12	7	5	12	2	8	2	0
	ベトナム	28	10	18	28	5	19	2	2
	マレーシア	14	5	9	14	2	9	0	3
	ミャンマー	3	3	0	3	0	3	0	0
	モンゴル	7	2	5	7	1	6	0	0
小計	1,879	220	1,649	1,879	176	1,404	211	89	
中東 (8)	—	26	13	13	26	3	22	0	1
アフリカ (19)	—	52	32	20	52	2	34	4	12
大洋州 (4)	—	8	7	1	8	0	6	1	1
北米 (2)	—	21	6	15	21	2	16	1	2
中南米 (15)	—	48	30	18	48	3	34	4	7
欧州 (22)	—	99	24	75	99	4	53	6	36

出典：東北大学外国人留学生数調査票のデータに基づき、筆者作成

学生数が多いことには変わりはない。特に学部生の受け入れは今後も伸び代があり、中国、韓国、台湾は引き続き入試広報の国際展開の有力な広報先として考えられる。

こうした状況を踏まえ、東北大学入試センターでは、2020年から海外の高校生に向けてオンラインを活用した入試広報の国際化の取り組みを試みた。次にその現状と課題について紹介する。

3 オンラインを活用した入試広報の国際展開

3.1 オンライン進学説明会・相談会の開設

東北大学入試センターでは、入試広報活動として「高校生、受験生とその保護者を対象とした進学説明会・相談会」・「高等学校の進路指導担当教員を対象とした入試説明会」・「オープンキャンパス」・「高校訪問」などが実施されてきた(久保, 2021)。2020年からは、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面で行われてきたこれらの入試広報活動の実施が困難になり、代替案としてオンライン化が導入された。既存の入試広報活動の名称を「オンライン入試説明会」、「オンライン進学説明会・相談会」、「オンラインオープンキャンパス」などとした上で、それぞれの特設サイトを設置し、オンデマンドコンテンツやライブイベント等の形で実施・運営することとなった。

そのうちの「オンライン進学説明会・相談会」では、東北大学を志望する全国各地の高校生、受験生およびその保護者を対象とした従来の対面型で行った内容以上の多彩なコンテンツを提供することで、東北大学の特色や魅力を伝えることに努めた。具体的には、東北大学の説明や東北大学の入試に関する説明動画コンテンツ、及び10学部がそれぞれ準備した学部の教育内容や教育環境についての学部紹介動画コンテンツ等をオンデマンドで一定期間に渡って閲覧できるようにした。さらに、東北大学の総長と学生支援担当理事からのメッセージを届けることで、コロナ禍で受験準備をしている高校生や受験生を励ました。

時間と空間の壁を乗り越えた形で広範に情報発信ができるオンラインの特徴を活かして国内のみならず、今まで実施が難しいとされてきた海外の高校生や受験生への情報発信が可能となった。その第一歩として「オンライン進学説明会・相談会」の一部コンテンツを多言語化に取り組み、世界への情報発信を試みた。

3.2 多言語コンテンツ作成による情報発信

先述した通り、本学の留学生の大多数が中国を中心としたアジアからの留学生である。特に私費外国人留

学生は、中国、韓国、台湾の人数が全体の約7割を占めている現状と東北大学の入試センターには、中国語と韓国語のコンテンツ作成に即戦力として取り組める人的資源があったことも加わり、最初の試みとして中国語および韓国語による情報提供が優先的に取り組まれた。

具体的には、2020年度から設置された特設サイトのコンテンツの多言語版の作成である。まず、東北大学の総長からのメッセージ及び教育・学生支援担当の理事挨拶の中国語と韓国語の字幕版をいち早く作成し発信した。その後すぐに、東北大学の全体を知ってもらうための大学説明の動画の中国語と韓国語の吹き替え版を作成し、情報提供を行った。また、10学部の学部紹介動画については、中国語と韓国語の字幕版を作成し、順次アップロードした。それに加え、英語版の作成にも取り組んだ。以前から英語による情報発信をしてきた本学のグローバルラーニングセンターの協力の基に作成した英語版のコンテンツをグローバルラーニングセンターのホームページに掲載し、発信を行った。

表3は、2020年度に作成した多言語動画コンテンツの再生回数（2022年3月25日現在）を示したものである。多言語動画コンテンツは東北大学公式YouTubeチャンネルを経由して閲覧可能となっている。中国語版については、中国国内でYouTubeが利用できない状況対応として、東北大学の北京事務所を通じて中国本土で閲覧可能なサイトにも掲載してある。表3にある数値は、初年度の取り組みの経過を示すためのものであり、今後は、このようなデータを多面的に蓄積、分析するで戦略的な入試広報の国際展開に役立てていきたい。

3.3 私費外国人留学生向けの入試説明会

2020年度に取り組んだ多言語での情報発信は、ある程度の反響があった反面、国内の受験生に向けた内容であったため、留学生向けのコンテンツを作成することが課題であった。そのため、2021年度には私費外国人留学生に向けた入試説明会を多言語によって行った。内容としては、2022年3月に実施する2022年度私費外国人留学生入試の募集要項に基づき、中国語、韓国語、英語による詳しい入試情報の解説を行った。

現在、東北大学の私費外国人留学生入試に関連する募集要項や受験手続きの書類等は日本語版のみとなっている。表3で示している私費外国人留学生説明会の中国語、韓国語、英語の動画コンテンツの公開は2021年の11月下旬とかなり遅い時期であったにもかかわらず再生回数が一定数あった。私費外国人留学試験に

臨む受験生には、一定程度の日本語能力が求められているが、早い段階から東北大学を目指す高校生やその保護者を対象として、多言語による入試関連情報を提供する必要があることが推察できる。今後、海外から東北大学を志望する学部受験生を増やすためには、これらの多言語化も課題である。多言語による入試情報の発信の有効性については、エビデンスに基づき検討していきたい。

表3 2020年度 多言語動画コンテンツ再生回数（3月25日現在）

動画コンテンツ名	中国語	韓国語	英語
東北大学総長からのメッセージ	279	685	1767
理事挨拶（教育・学生支援担当）	276	190	298
大学説明	528	541	—
文学部	51	30	487
教育学部	243	157	216
法学部	177	303	461
経済学部	249	166	208
理学部	250	499	419
医学部医学科	320	353	370
歯学部	17	9	248
薬学部	17	14	355
工学部	19	13	1087
農学部	22	30	255
私費外国人留学生入試説明会（2022年度）	389	205	322

3.4 課題

3.4.1 海外の受験生向けの入試情報の発信

先述したように、2020年と2021年に作成した多言語版の動画コンテンツは国内の受験生を対象としたものである。特に入試については、日本人学生の入試と外国人留学生の入試は異なるため、留学生向けの入試情報の提供が必要である。また、国・地域によっては東北大学の認知度が低いなどのことも考えられるため、国外から優秀な留学生をより多く獲得するためには、東北大学の認知度を上げるための大学紹介及び適切な入試情報を発信していくことが必須である。

3.4.2 多言語コンテンツにアクセスしやすい環境

現在、作成した多言語動画コンテンツは基本的にオンライン進学相談会・説明会の日本語版のコンテンツの下に置いてある。例えば、学部紹介の中国語版にアクセスするためには、当該学部のページに行き探すことになる。入試センターのHPのトップページには多言語版のコンテンツの情報に関する掲示は常にしているが、外国人がすぐに多言語コンテンツを見つけやすいとは言い難い状況である。海外からより多くの人が簡単に多言語コンテンツのような情報にアクセスできるように、アクセスしやすいサイトのデザインの工夫

が必要と考える。

3.4.3 入試広報の国際化に向けたエビデンスの蓄積

本稿で紹介した東北大学のオンラインを通じた入試広報の国際化の取り組みの成果を踏まえ、今後は他大学の留学生獲得戦略についての調査・研究や東北大学を志望する外国人留学生を増やすための入試広報のあり方について調査と研究を進めていく必要がある。

3.4.4 アジアの高校生むけの入試広報の可能性

先述したとおり、東北大学の留学生は大学院生が大多数となっており、学部の留学生の数は多いとは言えない。東北大学の留学生全体からみると、中国や韓国を中心としたアジアからの留学生が圧倒的に多い。このような現状を踏まえると、アジアからの学部留学生を増やすための入試広報の国際展開の可能性は大きい。中国や韓国の高校生向けの調査を通してその可能性を検証するとともに、主にオンラインを通じた入試広報を拡充していくことが望ましい。

4 おわりに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、必要に迫られ、急速に押し進められた東北大学における入試広報活動のオンライン化は、ある意味で入試広報の国際展開の可能性を見せた。その実現に向けての第一歩として多言語コンテンツによる入試広報の国際展開の取り組みは、新たな可能性を提供してくれた一方で多くの課題をも提示した。今後はその課題の解決に向けて更なる検証が必要となる。

本研究は JSPS 科研費 JP20K20421 の助成を受けたものです。

文献

- 文部科学省 2021.3.31 「留学生 30 人計画」 骨子検証
果報告、「留学生 30 万人計画」 関係省庁会議
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/jik_koukaigi_wg/koutou_wg/dai8/siryou1-3.pdf (閲覧
2022.3.25)
- 東北大学 (2018) 「東北大学ビジョン 2030」
<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/vision/01/vision002030/> (閲覧 2022.3.25)
- 東北大学 (2020) 「東北大学ビジョン 2030 (アップデート版)」

- https://www.tohoku.ac.jp/japanese/newimg/newsimg/news20200729_00.pdf (閲覧 2022.3.25)
- 東北大学グローバルラーニングセンター「留学に関する統計データ」(教職員限定)
<https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/aboutus/d-ata/> (閲覧 2022.3.25)
- 倉元直樹・宮本友弘・久保沙織・南紅玉 (2020) 「東北大学における入試広報活動の「これまで」と「これから」—頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ—」, 『教育情報学研究』第 19 号, pp. 55-69.
- 久保沙織・南紅玉・樫田豪利・宮本友弘 (2021) 『オンラインによる入試広報の展開 —「オンライン進学説明会・相談会」の実践を通して—』, 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 7 巻, pp. 57-65.